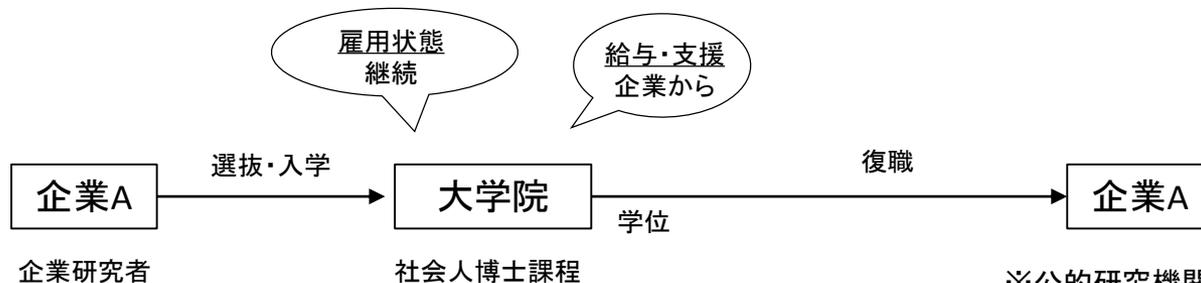
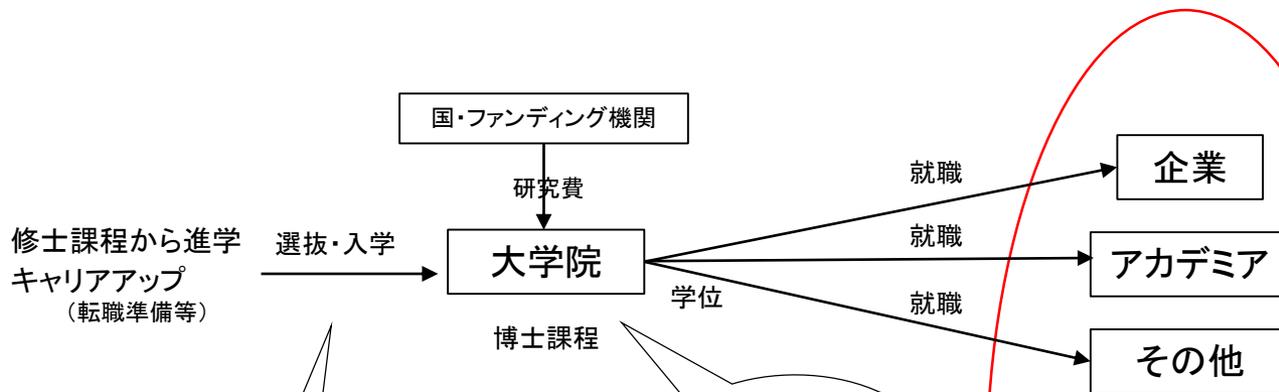


形態A
これまででも
多く見られる例



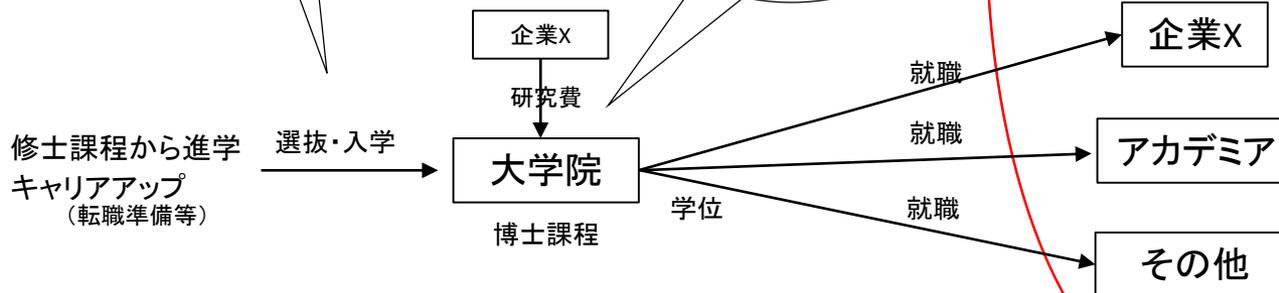
※公的研究機関での同様の制度含む。

形態B-1
今後ありうるもの

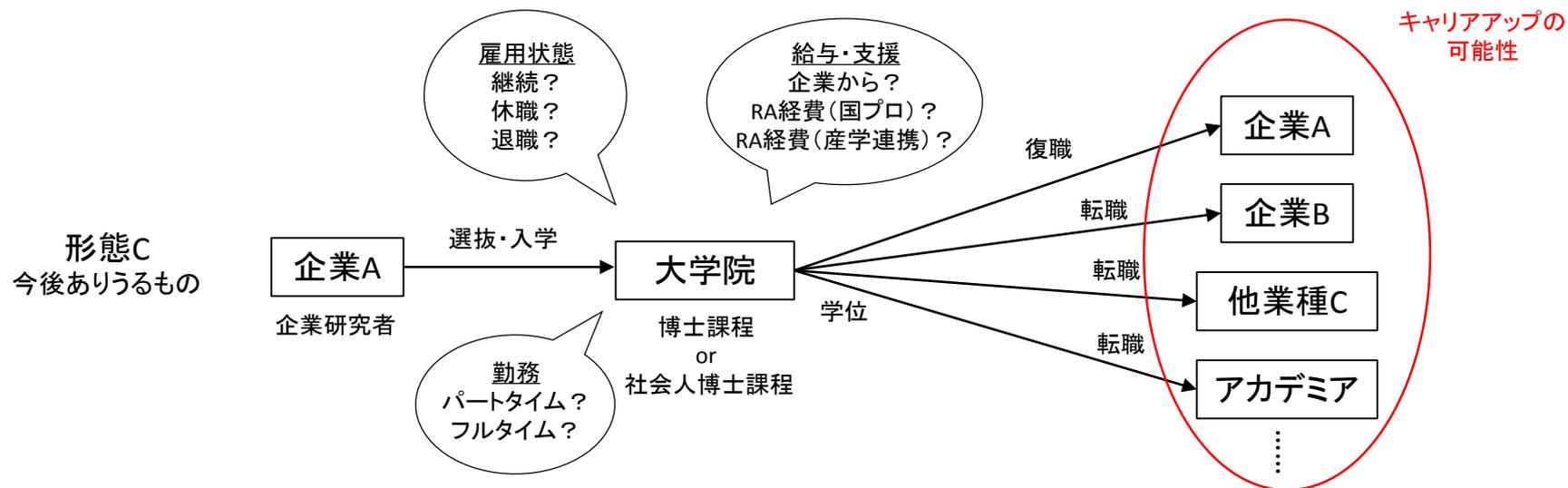


キャリアアップの
可能性

形態B-2
今後ありうるもの



社会人ドクターに係る議論



今後、どのような形態・組み合わせの
博士課程及び社会人博士課程が振興されうるか。

産学連携・ベンチャー起業や
博士課程・RA経費等の議論を踏まえて

振興にあたっての留意点は何で、
解決の方向性は何か。

(例)

- ・ 国プロや産学連携に従事させることと、博士号取得に至る専門分野の知識や方法論、更には独創力等を養うことをどう両立させられるか。
- ・ 企業研究者だけでなく、修士課程からの進学者や転職準備等もありうるが、進学・転職の推進にあたってのハードルは何で、どう乗り越えられるか。
- ・ 公募で研究戦力としての博士課程学生を登用する場合の留意点は何か。(例えば、採択決定と学生公募のタイミングをどう考えるか、など)